

タウンミーティング議事録

【開会挨拶】

皆さんおはようございます。本日は寒い中タウンミーティングにご参加いただき、ありがとうございます。現在、私は就任6年目で2期目の中間であります。就任当初から開かれた町政ということ意識してまいりました。なかなか時間を取って皆さん方に色々な事を説明させていただく機会がない中、年に一度は、タウンミーティングにおいてその時々町の重要施策について、お話をする機会を設けたいということで毎年開催させていただいております。去年は義務教育学校がテーマで多くの皆さんに参加していただきました。今回は、恥ずかしながら盛況とは言えませんが、熱心に参加していただき、まずは御礼を申し上げたいと思います。

明日はいずみスクエア、明後日は地域交流センターで、夜に開催を予定しており、今年度も町内3箇所北、中、南という設定で実施させていただきます。また、開催方法も含めてアンケートで色々なご意見をいただけたらと思いますので、ご協力よろしくおねがいします。それと時間は1時間半ですが、これまでのアンケート結果から、町の説明時間が長すぎる、意見交換の時間を長くって欲しいというご意見があり、今回は後半の半分45分を質疑応答の時間にさせていただいております。

1つ目のテーマであります「新たな王寺町総合計画」については、既に1月28日に、15人の委員の方で構成されている町の策定審議会より答申をいただき、それを元に策定をさせていただいております。内容はホームページでもご覧いただけますが、王伸4月号の配布時に合わせて、概要版を各家庭に配布し、お知らせさせていただきます。内容については、後ほど担当部長から説明をさせていただきます。

また、一部ではありますが対策予算ということで、2つ目のテーマ「高齢者福祉・子ども子育て支援に関する予算(案)」について、新規施策を中心に提案させていただく内容の説明をさせていただきます。

私からはこの2点を除き、今当面の王寺の重要な課題、トピックス的なものをいくつかご紹介させていただきます。

1月6日に泉の広場防災コミュニティセンターをオープンさせていただきました。住民の皆さんの安全安心、防災対策の拠点施設ということでございますが、昨年のような台風や南海トラフ地震など、今後も様々な災害の発生が懸念されます。昨日、奈良市内で行なわれた会議に出席し、その会議の中、奈良県出身で国土交通省事務次官の森さんの講演がありました。森次官がおっしゃるには、地震や台風、土砂災害など色々な災害のリスクがある中、自身が心配しているのは噴火だとおっしゃっていました。日本列島は火山列島で、桜島や磐梯山など大きな火山の噴火が100年周期でやってくるとの事で、降り積もった火山灰の重みで電線が切れ、国民生活が即座にパニックになる。富士山が噴火するかどうかは分かりませんが、森次官はそういったリスクもあるとお

っしやっていました。奈良県は噴火により住民生活がパニックになるということは想定していませんが、去年の豪雨、それから30年後に7割から8割の確率で発生すると予想される南海トラフ地震。また内陸型の活断層地震はいつ起こるか分かりません。去年6月の大阪北部地震にはびっくりしました。午前8時前にグラっときました。そういったことから官民通じて、住民の皆さまの普段の備え、そして我々行政としての対応も含め、安全安心施策をどの様に積み上げていくか、地域の防災力をどう強化していくか、これが一番の重要施策であると考えています。

去年は、自治会長の皆さん方にも大変お世話になって、避難行動要支援者名簿を作って配布させていただきました。地域で声かけをして早く避難してもらう。これしか人命を救う方法がないということが、去年の岡山県真備町など、中国・四国の豪雨災害での教訓であります。それをいかに地域の皆さんと情報を共有し、命を守る行動にすぐに移れるか、これを今年も一番の大きなテーマとしてやっていきたいと考えていますので、今年は防災訓練のための訓練は止めようと思っています。できれば要支援者名簿を活用し、本番を想定しながら誰がどこの家に声をかけ、どこへ避難するのかといった訓練が実際にできればと思っておりますので、是非、協力をお願いしたいと思います。

また、今年は県の防災計画の改定を受けまして、町の防災計画の改定もやりたいと思っています。それから2日前に国の2次補正予算の内示がありました。色々な災害にともなって平成30年度の補正が今の通常国会で行なわれていますが、先般、2次補正が成立いたしました。この中で王寺町に関わるものとして報告を受けているものがあります。それは去年の補正に引き続き、大和川の河道掘削工事です。現在、去年の補正予算8億円程度で一生懸命掘削工事を行なっていたいております。堆積した土砂をできるだけ撤去して、川の流量を増やす工事であり、一番即効性のある対策ということで国に何回も何回も前倒しで工事をしてもらえるようお願いをしてきましたが、今年も継続して5億円程度の予算の配分があったと伺っております。ハード的な面においては、大和川の河道の掘削で容量を増やし、溜めることができるようになるということがひとつ実現したことを報告させていただきます。工事は現在も行なっていますが、雨が多い季節には工事ができませんので、渇水期になってからの工事になりますが、できるだけ前倒しをお願いしたいと思います。

2つ目は、王寺駅周辺の町づくりです。奈良県と連携協定を締結し今年で3年目になり、昨年には基本構想を発表させていただきました。王寺駅周辺といっても北エリアも南エリアもある中で、県に一番核になる事業としてお願いしてきた西和医療センターの移設であります。以前から要望してきた耐震改修の実施に合わせて、王寺駅周辺に移設するということを、知事の公約の中に改めて明記させていただきました。王寺駅周辺の町有地ですぐ提供できる場所としては王寺駅南口の駐輪場があります。駐輪場部分の面積だけで足りるのかも含めて検討し、あの場所でできるだけ早く西和医療センターを誘致・移転させていただきたいと思っています。

また、南口のロータリーも狭く、できるだけJRの協力も得て、駅前広場のさらなる拡張・充実を図るとともに、商業施設の誘致ができればとも思っています。王寺駅周辺の町づくりもやっと動き

だすのではないかと非常に期待しております。北エリアについては、今後手法も含めて検討することが多くあります。明後日、久度地区の自治連合会の皆さん方とできるだけ色々な場所を視察に行こうということで、神戸市の浜山地区の土地区画整理事業の事例を見学、学習する予定にしています。このように北エリアも南エリアも、できるだけ将来を見越してまちづくりの基盤を作っていきたいと思っています。

3つ目が義務教育学校の整備であります。平成34年4月開校に向けて義務教育学校(北)は王寺中学校の跡地に整備するということで進めていますが、昨年には協力を得まして必要な土地を取得することができ、今年度は造成工事に入ります。そして来年度、再来年度で施設整備を行ない、平成34年4月のオープンを目指します。そして義務教育学校(南)は、当面、分離型の義務教育学校として北と同時にスタートさせたいと考えています。実際に将来のことも見据え、いずれ統合という形ができるのか、あるいは分離という形で義務教育学校を作っていくのかといったことも含め、色々な研究をしております。並行して統合型・分離型の先進校の、様々な事例も研究しながら、現在、進めているところです。それから昨年来、大変ご心配をいただいております空調設備につきまして、6月には小・中全5校に対する施設整備が終了します。この夏の子どもたちの環境はご心配いただかなくてもいいのかなと思っています。

4つ目は観光振興です。これまで王寺町は本当に観光とは縁のない町だったと思っておりました。先ほど、現在、就任6年目と言いましたが、就任時に観光担当の人はいますかと訊ねると、観光担当者はおりませんでした。色々な所で話をしていますが、王寺という地域で、どのように活性化を図り、どのように税収を図り、行政サービスの原資を確保していくのか。収入がなければ行政サービスは維持することができません。王寺町はベッドタウンで、税収において町民税の所得割が非常に大きなウエイトを占めております。所得割のウエイトが高いのはやはり大阪に勤務されるサラリーマン層を中心に納税していただいているのが要因です。今後そういった方々が定年退職されることになります。そうすると今まで税金を納めていただいていた皆さんの多くが当然の事ながら、高齢化にともなって行政サービスの受け手となります。そうすると入ってくるお金に対し、出て行くお金が多くなり、行政サービスの提供を維持するための財源を確保する必要があります。王寺町に大企業を誘致できるかというそれはなかなか難しい。しかし、みなさんご存知のとおり、今日本は観光立国を目指しています。東京オリンピックにあわせ、3000万人のインバウンドが国の目標です。もう少し先には4000万人とも言われていますが、GNPにおける観光産業の占める割合が、だんだん大きくなってきています。王寺町が観光と無縁かという、決してそうではありません。王寺は本当に立地的に恵まれているところであります。今の京都の観光をみてみますと、地元住民の方が外国人観光客によりかなり迷惑を被っており、あまりいいイメージがないかもしれませんが、やはり観光産業をうまくコーディネートしていく事は本当に大事なことであります。まずは雇用があります。それからそこでの消費は税収の確保にとって不可欠な要素となるため、観光振興を図っていきたいということで、今年度、ホテル誘致に取り組んでみました。様々な協力、ご

意見もいただき、王寺駅南側の都市公園の半分を提供して190室の東横インが予定では来年1月に開業することが決まっています。このホテルは厨房を持たないホテルですので、ホテルと地域がうまく補い合って、飲食系は地域のみなさんに頑張ってもらいたいと思っています。地域で消費が生まれ、地域経済の循環があることが一番ありがたいことですので、そういった施策も頑張っていていきたいと考えています。

それから観光には素材がいります。目的が必要です。王寺周辺は聖徳太子の里であり、2021年が聖徳太子の1400年の御遠忌の年であるということで、県も斑鳩あるいは地域も一緒になって盛り上げようとしており、2021年はこの地域にとって大きな節目であるということ、それから今年はラグビーのワールドカップがあり、花園から王寺に多くの人に来ていただきたい。さらに2020年には、東京オリンピック・パラリンピックがあり、2021年には第二のオリンピックといわれるワールドマスタースゲームズが大阪で行われます。さらに、2025年の大阪・関西万博とこの地域にとってこの機会をうまくつかまえ観光基盤を作っていくことが、今後のこの地域の雇用、発展あるいは税収確保など、色々な面で不可欠だと思っています。

直近の話題としましては、3月16日にJRのおおさか東線が全線開業します。新大阪から久宝寺・王寺経由の奈良行きという直通電車が朝夕だけですけが走ります。新大阪から乗り換えなしで王寺まで早くて39分で来ることができます。こういう交通事情の改善も見込まれ、私は非常に期待をしております。というのは、西日本からの観光客が新大阪で降りてそのまま乗り換えなしで王寺あるいは奈良に来ることができるというメリットをできるだけ生かしたいと思っています。この様な好材料がある中、王寺の活性化をどの様に図っていくかということは、本当に大きなテーマだと思っています。

達磨寺は、雪丸をはじめとして認知度が高まってきました。もっともっと地域の皆さんとPRしていきたいと考えています。なんといっても聖徳太子の愛犬雪丸は本物ですので。やはりそういう良いキャラクターをうまく活用するというのが大事だと思います。それから明神山ですが、色々なきっかけでこの場所の整備を始めたわけですが、日によって眺望に違いはありますが、誰もあの場所から明石海峡大橋や比叡山が見えるとは想像されません。私は、色々な意味であそこは1800年の歴史の年表をたどれる場所だと皆さんに紹介しています。箸墓古墳から2015年の最近の阿倍野ハルカスまで1800年の歴史上の史跡をあの場所から眺めることができます。このロケーションをもっと生かして多くの人に訪ねていただける観光地にすることが我々のプランであります。

もっと色々お話をさせていただきたいことがありますが、最近の話題的なことも含めてベースにそういうことを考えながら、来年度の予算を編成させていただいております。さらに長期的には、10年後を目指して今のこの新たな総合計画の中で示させていただいているプランをこの後の説明で皆さんに聞いていただきます。これからまだ実施計画も作っていく必要があります。足りない部分もたくさんあると思いますが、後半の質疑応答でのご意見をたくさん頂戴したいと思います。ありがとうございました。

【説明／テーマ「新たな王寺町総合計画」について】

【質疑応答】

Q1.

学校図書館において 2019 年 10 月から雪丸ロボットを導入するとのこと。王寺町内の全ての学校に、同時導入か、それとも段階的な導入か。

A1.

小中学校5校に同時に 10 月からシステムとして導入予定。既に図書館司書の方に意見交換といった機会を取っており、今後半年間でしっかり時間をかけ協議し、学校教育や子どもたちにとってより良い学校図書館となることを目指して進めていきたいと考えている。今回の目的はあくまでも子どもたちの読書習慣の形成。現在、今質問されたように学校司書の方が熱心に子どもたちに接して指導しているおかげで、読書習慣・貸し出しが促進されている。より一層子どもたちにとって魅力ある図書館作りにつなげていきたいと考えている。

Q2.

病児保育事業について、総合計画にも含まれているが、西和医療センターの開設だけで満足してはいけなと考える。大和高田市や生駒市といった、王寺町からは遠方の病院では非常に不便でということで、5町で西和医療センターを開設に尽力されたことは評価したいが、これで満足してはだめだ。たとえば町内の病院、それに加え町内の保育園に看護師や医師を派遣していくことで、病児保育あるいは病後児保育もある程度可能とこまでたどり着けるように思う。今後どのように考えているのか、町内の病院、保育園の活用のビジョンを聞きたい。

A2.

病児保育については町内の小児科医などで診てもらえないか、役場からも打診したが、なかなか病院側との調整がつかず町内の小児科医では難しいとのことだった。また、保育園は病後児ということで黎明保育園に対応してもらっている。病児保育事業については、当初は西和7町でと立ち上げたが、最終的に5町でやっていく。2020年1月に開設予定だが、できるだけ早い時期から保護者の方に利用してもらえるよう充分に周知して取り組んでいく。

Q3.

久度や舟戸地区の再開発について、町の計画にあたり、歴史や文化的な評価が低いのではと思っている。久度には道が狭い場所もあるが、どの程度まで道を拡張されたいかHPに掲載がなくわからない。全国的にも路地の多い地域は防災との兼ね合いもあるが、できる限り保全しようという動きもある。久度や舟戸の狭い道や路地を保全しようという点が、行政の計画には見られな

い。ある程度狭い路や路地といったものは人々とのつながりが親密で、その象徴として、駅前にああいう形で狭い路、路地で暮らしてきた歴史というものは王寺固有のものである。本町や畠田地区、三郷、斑鳩、河合町も同様、大阪にもたくさん路地があり落ち着きのある場所として絶対残しておくべき場所として考える。達磨寺や明神山も大切だが、王寺の文化は自然や寺だけではない。たとえば久度には以前駄菓子屋や銭湯が多くあり、親密性の象徴としてあるような地区だ。そのような歴史を軽んじられているとHPを見て感じた。保全していく観点を持っていただきたい。

A3.

久度地区の価値観は先ほども言っていたように、もともと路地や古い家並みがあるが、一昨年久度地区で火事があった。その時は消火できたが、狭い路地に消防車両が入れず消火活動が遅れると、大惨事になってしまう。路地には確かに重要な部分もあるが、防災面では住民の不安もある。また、王寺駅周辺地域も、道路が狭隘であったり、空家が多いなどさまざまな課題がある。その課題を踏まえ先ほど冒頭町長の挨拶にもあったが、久度地区の活性化と問題点を解決すべく久度地区連合会の皆さまと実際に住んでおられる方の意見も聞きながら、これからまちづくりを進めていきたいと考えている。久度地区の北側の密集地を全部取り壊し広い道路にしてビルを建てるという考えではなく、昔からある古い住家やいわれのある家がたくさんあるので、その家を残しつつ、区画できちんとした整備を行い、皆さんが安全で安心して暮らせるような久度地区にしていきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

Q4.

3点質問したい。1点目、町から市への格上げの件、2点目は王寺全域の都市ガス化、3点目は豚コレラの件です。方向性あるいは可能性等分かる範囲で説明をお願いしたい。豚コレラに関しては、感染源がイノシシといわれており、私の住む明神周辺ではイノシシが出没する。

A4. (町から市への格上げ)

王寺町周辺7町で斑鳩が人口的には多く27,000人、王寺が24,000人ほど。数十年前に住民発議で合併協議会があったわけだが、いろんな経緯の中で実現しなかった。王寺町だけで市政になるのは、区域や人口要件などでなかなか難しい。広域である前提での話と思うが、それぞれの地域性もあり難しいと考える。県を中心に奈良モデルを含め取り組んでもらっているが、その中で可能な限り、共通で出来る部分はまずは共通でやっという、行政事業を効率的に行っていく。たとえば病児保育。各町で病児保育をやることも可能だが、件数的なことや医者や看護師など共通の人的サービスをそれぞれの町が持つことは非効率なので、広域でまとまって西和医療センターという場所で、人材を活用していこうということで、やっという来年1月から実施する。当面は観光等を広域で出来ることを積み重ねていって、真に市政が望ましいのかどうか、権能的には市と町では大きな差がなく、保健所設置市や生活保護業務を市にするなど、ある程度人口が多くなると権限権能は市によって変わるものが、市と町で大差はないと考える。市政を決して否定するわけ

ではないが、まず「合併」という課題をクリアしないと「即、市」というのは難しいと考える。

A4. (都市ガス化)

関西では需要量がある地域に対し、大阪ガスの民間企業で都市ガス化が進められている。王寺町ではそれなりに需要がある美しヶ丘と久度地区の一部。これを町全域に伸ばしていきたいと行政が仮にお願いしたとしても、企業である大阪ガスが判断するので、実現すれば素晴らしいことだが、行政として要望するのは厳しい。

A4. (豚コレラ)

豚コレラについて、イノシシが感染源という報道がある。イノシシは町内で美しヶ丘、畠田、藤井、最近では本町地区に出没しており、対策を考えている。地元の農作物に被害があり、現時点では幸いにも人への被害はないが、いつ起こるか分からない。来年度からイノシシ対策として、防護柵の設置の補助を検討している。専門家の猟友会の方をお願い、その専門家の方と町の職員と、そして地域の方に参加してもらい、専門家の意見を聞きながら一緒に有効的な対策を進めたいと考えている。また、危険な地域の道路に防犯灯の設置を考えている。どうしても動物なので動向がなかなかつかみきれないが、猟友会の協力を得ながら何とか捕獲を進めていく。去年は 16 頭捕獲はしており、今できる対策を進めていきたい。

A4 に関して質問者から――

1点目に関しては議員の数の面から答えてほしかった。2点目は防災の面で回答してほしかった。阪神淡路大震災の際、長田区全域が全焼した原因はプロパンガスが多かったことで発生したし、福島県は津波があったから火災がなかったが、津波がなかったらすごい火事が発生していただろう。そういう意味で防災の面から答えてほしかった。3点目の質問に対してはその回答で結構。

Q5.

2点質問がある。1点目は王寺中心地の基本計画構想があったとき、狭隘な市街地になっており、王寺駅の電留線を移設したり撤去したり、奈良駅前や久宝寺駅、大阪駅前のように、まず土地を創出して再生計画を必要とするのではと思い意見書を出したが、実際どの程度具体化されているのか、あるのかないのか。

2点目は避難所の問題。緊急避難所と避難指定所で合計 12 箇所しかなく、約 24,000 人が一箇所あたり平均で 2,000 人を受け入れる体制になっている。近隣の自治体に比べ非常に少ない。たとえば河合町は人口 18,000 に対して 28 箇所、上牧町は 22000 人口に対して 73 箇所、三郷町人口 24000 に対し 45 箇所というように、王寺に比べ 2 倍～6 倍くらいの指定所となっている。先ほどの町長の話にもあったように、今後も災害や地震が予測されているし、去年の台風 21 号で学校施設を避難所として活用され、全国で約 2500 箇所が災害にあったという結果が出ており、学校自体も安全でない。耐震化は進むも、風の影響を考慮されておらず、温暖化による

台風の大型化による影響が出ている。避難所の指定は公助の役割が高いわけだから、王寺町としてどう考えているのか。

A5. (町の計画)

一つ目の電留線について、王寺町は7平方キロメートルの県内でも下から5番目の小さい町であり、いろんな整備を行う上で土地の確保が最優先課題だ。JR電留線は 2.7 ヘクタールある。県とのまちづくり協定の中で何とかあの 2.7 ヘクタールを有効活用できないかということで県、JRと検討は進めている。ただ、電車の留置線を移設するにはおおむね 100～150 億円程掛かる。ではその費用負担を誰が負担するのかという話で、JRが自らの動機で移設の必要性を感じてくれればいいが、JRにはその動機がない。町が地域の広域拠点として、協定には検討ということでは挙げているが、では 150 億円をどう捻出するか、そこで話は止まっている。適地を見つけ移設をしてもらい、その費用をJRが出すのか、県が出すか。町が負担するのは不可能。久宝寺の例を見ながら協定の中に検討の項目として入れたわけで、久宝寺の高層メガマンションと同じようなことを王寺町でも出来ないかと思っているが、JRからは、今の時代にそこまでのマンション需要は見込めないだろうという話が出てきている。まちづくりは良いが費用負担はどうするか、かなり深堀する必要がある。何とかならないかと思っはいるが、現実JRも県担当者もなかなか良い返事が出来ないのが現状。しかしJRの 2.7 ヘクタール全てが仮にだめだとしても、出来るだけJRからは用地を提供していただくなり町有地、民間の協力も得られるのであれば、南側のロータリーは広くなく危険でもあり、広いロータリーにして、場合によっては立体的なバスターミナルもできればと検討している。

A5. (避難所)

王寺町では人口 24000 人がお住まいだが、前提として災害が起きても被害がない地域や地震が起きても住宅がとどまっいて大丈夫な場合を踏まえ、現状 12 箇所、収容人数 7000 人程度が避難できる場所として確保している。また、高齢者など災害時に避難所よりもさらに手厚い支援が必要な方の場所が必要だろうということで地域の高齢者施設と協定して避難所を増やす動きもある。近隣で数多くの避難所を持っているところもあるが、上牧町などにも確認したところ自治会館なりコミュニティセンターも含めて避難所として指定されており、それが理由でたくさんの避難所があるようになっている。王寺町でも基本的に12箇所とは掲げているが、いざ災害時となると地域の公民館などでも当然担えると考えている。

Q6.

地域で教室活動を行っているが、中央公民館が7月以降使えなくなり、部屋の確保に混乱している。われわれは任意団体なので、部屋を予約する優先順位がまったくなく、非常に不安だ。また、高齢化に伴って新しい教室を作りたいが場所がない。中央公民館廃館に伴い、行き先について教育委員会からも会館からも何の相談も配慮なく、行き先がなくなってしまった。健康寿命をうた

い、一市民スポーツをうたっている町であればご配慮いただきたい。

A6.

中央公民館の廃館にともない、他の施設を使えるよう、利用使用目的、ニーズに応じ使用料金がどのくらいになるか等、案内するように各施設担当に指示する。新たな施設のいずみスクエアが出来、需要に関しては施設が整っているので、どの施設が相応しいか個別に相談させていただく。

Q7.

義務教育学校が出来ることが、それまでのしばらくの間、各小中学校に空調設備が付くと聞いている。長期間ではなく、ごく短期間で空調設備を完備され、義務教育学校へ移行するとすると、多額の金額になるのでは。

A7.

北の三校については3ヵ年しか使わないことになる。国の補助金があるが、基本的には10年以上使わないと補助金は得られない。皆さまの貴重な税金を使うのに高額な費用を投入するのはなかなか難しいが、去年の猛暑のような熱中症で子どもの命を奪うような悲惨な事故があり、子どもの安全安心は欠かせない急務であることから町全体で模索した。その中で短期間の空調設備として、発電機を利用したレンタル方式の事例を文科省から聞き、王寺町においても一般公募のプロポーザル方式で業者を決定し、3年間に限り費用を出来るだけ抑えて導入する形を決定。準備を進めている。

Q8.

資料に掲載されている農福連携について、高齢者の見守りやSOSのところだが、新聞配達やヤクルトなど毎日配達されるような事業所も含まれているのか。ニュースで一人暮らしの方に異常があったとき助けられたという例もあるので、お願いしたい。それから福祉の話だが、あべのハルカスには農園があり高齢者、障害者が一緒になって農業をやってもらえるような場所を提案したい。また、三室から本町交差点にかけて高架にならないか。時々救急車がサイレンを鳴らしているのに長時間止まってしまい通れない状況があり、それで本当にいいのかと感じている。観光についても奈良県は道路事情がとにかく悪く、渋滞で観光客が疲れて帰られると聞く。王寺駅周辺の夕方の迎えの車が両側に止められており、その間に車1台しか通れない状況。たとえば天王寺ように駅の中など広大な空間を上手く使えないか。

A8. (見守り・農園)

見守りの件について、40事業所の協力を得られる予定。新聞配達員の事業所やコープ、ヤクルトなどの身近な配達員の方にもお願いすることを予定している。協定後、事業所を公表していきたい。また、農園についても検討する。

A8. (高架・狭隘な道)

国道 25 号は王寺の南北の基幹道路で、当該交差点については町も国へ斑鳩町三郷町と協働して、国・県へ渋滞対策の実施としてできる限り 4 車線化を要望している。高架は、大和川を越え近鉄線越え、JR線を越えるということで、約 1.2 キロを横断しなければならないという地理的条件や、南側の 168 号の 4 車線化が幾分進んでいることと、斑鳩町では斑鳩パークウェイが開通間際であることから、先ほどおっしゃっていただいたとおり三室間が課題である。救急車については年間 11,000 台の出動があり、そこには基幹病院である西和医療センターもあるので、渋滞で車が動かないという状況がないようにと、国に引き続き陳情していきたい。駅前広場の渋滞だが、お迎えの時間帯は待たれる方の路上駐車について、警察とも十分協議している。将来的には南の駅広場をJRの電留線のほうへ、すぐに実現できることではないが、協力をいただければスペースを作れると思っており、当面はそこを利用しているバスタクシー事業者を含め、警察と道路管理者である王寺町で協議している。路面標示や看板など簡単なものについては直ぐにでも取り組めると思うので、状況を見ながら取り組んでいく。

【閉会の挨拶】

3日間、たくさんご来場くださいましてありがとうございました。色々と説明をさせていただきましたが、細部はまだまだ説明不十分。今後詰めていくことが多々ございます。また機会をみていただいて、総合計画に対する意見、あるいは新しい予算の執行にあたってご意見をいただきたいと思っています。

今年は統一地方選挙の年です。4月には県議会議員選挙・知事選挙・町議会選挙・参議院議員選挙があり、色々と激動の年になるのではないかと。消費税率の引き上げもございます。また改元といったこともございます。世の中の環境が動く中で、地域が少しでも良くなりますように、発展するように、我々は頑張っていきますので、アンケートでご意見をお寄せいただくことをお願いして、終わりのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。